

## ヨハネによる福音書 4章 16～30節

昨年末の12月から、サマリアの女性をめぐる4章の出来事に入っています。今月はその3回目となります。

時は年度替わりの4月。しかも、2021年のこの年は、イースターの主日しゅじつをもって新年度が始まります。その新たな出発をいま一度、イエスの復活のいのちに導かれて始めることができたなら……。今月はそんな願いと祈りをも憶えつつ、聖書に向かいたいと思いますが、今回の聖書箇所は「ヨハネ福音書 4章 16～30節」です。ここから、私たちははたして、イエスのどのような語りかけを聴き取ることができるのでしょうか。聖書の言葉に心の耳を澄ませ、イエスに聴きたいと思いません。

### イエスとサマリアの女性の物語 (4:1～42)

・サマリアの女性に関わる記事は4章の大半、新共同訳の聖書で丸々2ページ以上に及んでいます。実に大きなスペースです。それはとりもなおさず、聖書の信仰にとって重要な真理が一つならずここに置かれているからなのでしょう。

・物語の全体を内容的に整理し、主な登場人物おもとテーマをそれぞれに書き出してみると、以下のようになります。

(節)	1～30	31～38	39～42
(主な登場人物：イエス以外)	サマリアの女性	弟子たち	町の人々
(主要テーマ)	真 <small>まこと</small> の渇き	知らない食べ物	信仰における主体性とは？
	渇きを癒やすいのちの泉	伝道とは？	？
	真実の関わりとは？	？	？
	礼拝の本質とは？	？	？
	？	？	？
	—共通：サマリアの女性とは？ イエスとは？ 救い主とは？ 神とは？		
	信仰とは？ 証 <small>あか</small> しとは？—		

### 今月の中心：27～30節

・今回は前述のとおり、上記「1～30節」の第3回目で「16～30節」が聖書箇所ですが、とりわけ後半の27～30節が中心になります。

・事は、前回の礼拝をめぐる部分を除くと、イエスの弟子たちが町から帰ってきたところから始まります。筋を追うと、

- ①弟子たちが町から戻る
- ②と、イエスがサマリアの女性と話をしている
- ③弟子たちはこれに気づいて驚く
- ④イエスの言葉を聞いた女性はすぐに町に向かい、事の始終を人々に話す
- ⑤彼女から話を聞いた人々がイエスのもとにやってくる

というふうになりますが・・・

・しかし、事柄としては単純ながら、幾つか、不思議でもあり興味深くもある記述に気づかされないでしょうか。

「しかし、『何か御用ですか』とか、『何をこの人と話しておられるのですか』  
と言う者はいなかった」(27)

- ・一つは、弟子たちの反応の不思議です。
- ・弟子たちは町から戻ってきて、イエスが女性と話しているのに驚いた、と 今回の冒頭に記されています (27)。
- ・白昼、女性と <sup>おおやけ</sup>公 に話をしている。しかも、相手はサマリア <sup>じん</sup>人で、そればかりか、見た目にもどこか崩れた札付きの女性です。なのに・・・
- ・なのに、『何か御用ですか』とか、『何をこの人と話しておられるのですか』と言う者はいなかった」というのですから、やはり不思議で、そこには何か尋常でないことがあったのでは、と思われなりません。
- ・なぜなのでしょう？
- ①弟子たちの沈黙は、なぜ？ そして それは、そこでのどんな出来事を暗示？
- ②そもそも、その場の空気はどんな？ そして それは、サマリアの女性のいかなる内面を暗示？
- ・そうしたことを考えつつ、そして結局、私たちはそこから何を学ぶのか、と問われているように思われます。

「女は・・・人々に言った。

『さあ、見に来てください。わたしが <sup>おこな</sup>行ったことをすべて、言い当てた人がいます。  
もしかしたら、この方がメシアかもしれません』(28～29)

- ・また一つは、サマリアの女性の変化です。
- ・「わたしが行ったことをすべて、言い当てた」(29) と彼女は言います。「私が行ったこと」とはどんなことでしょうか。札付きの女性です。人々は容易に想像できたにちがいありません。ところがなんと、「そのすべてを言い当てた」と言って、彼女はイエスを紹介しているのです。
- ・驚くような変わりようではないでしょうか。人目を避けるためにわざわざ、誰もいない暑い <sup>ひるひなか</sup>昼日中を選んで 水を汲みに来ていた彼女。その彼女が今なんと、自分の恥を <sup>さらだ</sup>曝け出して、イエスを紹介しています。

- ・サマリアの女性の内に 何が起こったのでしょうか。  
それまでの彼女と比べて、何がどう変わったのでしょうか？  
その変化はいったい、どこからもたらされたのか。誰の何によって引き起こされたのでしょうか？
- ・そして、サマリアの女性のその変化から、私たちははたして、どんなことを教えられ、どんなメッセージを聴き取るのでしょうか。

### 「そこには ヤコブの井戸があった」(4:6)

- ・そして、あと一つ。サマリアの女性が水を汲んでいたその井戸が「ヤコブの井戸」だったという事実です。それが他の誰でもなく、まさに「ヤコブ」のそれだった、ということ。そこに何か、この物語の奥行きを読み解く重要なかぎがあるのではないか。謎解きにも似たそうした推測がもう一つの点です。
- ・そこで、そのヤコブのそもそもの物語をいま一度、読み返してみると・・・？ 聖書の箇所は、旧約聖書の創世記 25 章 19 節以下です。
- ・そこからはたして、どんなことが見えてくるのでしょうか。  
サマリアの女性はいったい、どんな思いを抱いて ヤコブの井戸に通い続けていたのか。  
ヤコブの井戸の暗示するところに想いを膨らませたいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・

つまりは、

- ・サマリアの女性の物語とは <sup>ひとこと</sup>一言で言うと、どんな女性の物語なのでしょう。
- ・自分にとって、サマリアの女性とはどんな存在なのでしょう。
- ・サマリアの女性とイエスの出会いの全体から、どんなことを思うのでしょうか。
- ・そして、そこから どんなメッセージを聴き取るのでしょうか。